

中国春季リーグ戦女子2部結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

4/22、23に島根県広瀬中央公園総合体育館において、中国春季リーグ戦男女2部が開催されました。

広島大学女子の結果は、以下のとおりです。

vs 安田女子大学

○2-0 (25-10、25-12)

vs 広島修道大学

○2-0 (25-11、26-24)

vs 山陽学園大学

○2-0 (25-18、25-20)

vs 川崎医療福祉大学

○2-0 (25-17、25-18)

vs 山口大学

●0-2 (22-25、21-25)

(最終結果)

第1位 山口大学

第2位 広島大学

第3位 川崎医療福祉大学

第4位 山陽学園大学

第5位 広島修道大学

第6位 安田女子大学

(広大バレー部 X (Twitter))

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

新入生7人のうち4人が帯同し、西岡(兵庫・姫路高校)がレフトで、中道(広島・基町高

校)がセンターで、光本(岡山城東高校)がリベロで、村岡(広島・尾道北高校)がピンチサーバーで出場しました。昨年、4年生(02生)が引退し、冬の練習は就職活動や留学でプレーヤー3人の時もありましたが、多くの新生を迎えることができ、日々の練習に活気が生まれ、新しい時代に突入したことを強く感じています。6年前に推薦入試の種目からバレーボールがなくなり、3年前に2部に降格、今年はプレーヤー6人で出発と、厳しい状況が続きましたが、そんな中でも諦めることなく前を向き、上を目指し続けた当時と今の現役生、そして、結果が出なくても温かく支えてくださった同窓生の皆様のご尽力により、女子部は今再び息を吹き返そうとしています。目標も「まずは活動の継続」から「1部再昇格」へ明確に切り替わりました。今後もたくさんの方々のお力を借りて、長く逞しい集団を目指したいと思っておりますので、今年もどうぞよろしく願いいたします。

まずはその新生、驚かされたのは何と言っても高い対応力とレシーブ力です。入学からわずか2週間、6人を前提としていたチームにスタメンとしていきなり3人が入り、チーム練習が十分に出来ていない中で、かつ生活環境も大きく変わった中で、初めての遠征、初めての公式戦とは到底思えないほど、堂々たる活躍で思わず目を奪われました。特に、サーブは山大戦まではサービスエースとともにミスも目立っていましたが、山大戦では試合状況をよく読み、時間の使い方も工夫してミスなく強いサーブを打ち続けました。また、西岡のキャッチ、光本のディグ、中道のフォローは、上級生を含めても上位3つを占めるほどのレシーブ力で、27生の津口、30生の本郷、28生の駒田を既に彷彿とさせるほどです。まだ体が出来ておらず、これまでの感覚に頼っている状況でも、当然のように拾い、決め続けた姿には、1部で戦う未来がはっきりと見えました。ブロックは高さがあるゆえに課題が見つかりましたが、コミュニケーション力も非常に高く、彼女たちの成長速度は私たちの想像を上回るのかもしれませんが。

続いて上級生、まずは少人数でもひたむきに冬の練習に取り組んできたことを褒めなければいけません。新宅(4年・広島・安古市高校)のネット際、東(3年・愛媛・宇和島東高校)の反応、長谷川(2年・静岡・浜松北高校)のスパイクなど、マネージャーも含め上級生全員に今冬の成果を感じました。中でも新エース岩永(2年・長崎西高校)の引き出しが増えたことは圧巻で、二段と平行を打ち分け、軟打で得点を重ねるモデルチェンジも見られました。昨年は入り過ぎて上を向いて打つこともしばしばありましたが、ボールに応じて得点の可能性が高い動作を選択することができており、まさに今からぐんと伸びる成長期に突入することは間違いありません。サーブは今後も狙われ続けると思いますが、練習ではこれまで夢だった現役生だけの6対6が可能になりましたので、崩された後の引き出しもチーム全員で増やして欲しいと思います。

山大戦に関して言うと、昨年3年生以下のチームにハイキャリアの1年生が加わって目に

見えて戦力アップした相手に対し、広大は4年生の穴をどう埋めるかから始まりましたので、マイナスをゼロにするチームとプラスしかないチームの差を感じました。相手は4年生の引退試合で気迫も溢れており、その中では広大は強いサーブと新入生の力で大善戦したと言えるでしょう。昨秋体得した考えるバレーが主将の新宅を軸にきちんとできており、一つ一つのプレーの狙いははっきりと見て取れました。今回、狙いどおりに得点できず、狙いどおりに守れなかったのは、単純にチームとしての練習量の差だと感じましたが、相手にもまだまだ伸びしろがあり、普通に練習してはいるこの差はいつまで経っても埋まりません。

そこで、東や岩永をはじめ上級生に求めたいのは、自分が上手くなる、という考え方をやめることです。試合では、本来取るべきでない選手がボールを取りに行ってしまう場面が度々あり、目の前のボールしか見えていないと感じる瞬間が非常に多くありました。今の視野と選択肢のまま練習しても、体格、経験、技術の全てで大差ある1部相手には敵いません。大事なことは、自分よりも上手な1年生に教えることです。自分よりポテンシャルが高い1年生の力をより発揮させるにはどうしたらいいか、それを第一に考えることで、様々な局面におけるアプローチ手段が身につきます。仲間の力を引き出すことはチームの力を引き出すこととなり、結果として目の前のボールに対する選択と判断につながります。1年生は限られた状況でよく頑張りましたが、上級生が1年生の力を引き出せていたとは全く思いません。西岡が得意とするボールは上がってこず、動ける中道は常に中で遅い攻撃に終始し、チャンスを出せる光本はボールを触れませんでした。2部は上位2チームが頭一つ抜けましたが、現状の幅とスピード感では1部だと通用しません。好敵手・山大と切磋琢磨して、両チームで一気に1部2チームを飲み込んで欲しいと思います。

今週末は、やまぐちリフレッシュパークで男女1部 Second stage が行われます。
引き続きよろしく願いいたします。